

感動の場

『昭和新山』

1954 年 小川原 脩 画



ぽっかりと浮かんだ白い雲に、空の高さを感じます。空に向かって突き出ている赤い岩山は、見覚えのある人も多いと思います。壮瞥町の昭和新山です。

1943 年、麦畑から地震と爆発音とともにふくれ上がり、その後爆発、隆起を繰り返し火山が出現しました。郵便局長の三松正夫さんによる昭和新山の生い立ちを克明に観察・記録したミマツダイヤグラムも有名です。

この作品は昭和新山ができてからおよそ 10 年後に描かれていますが、裾野が木々で覆われた最近の写真と見比べると、大部分がむき出しの岩肌であることがわかります。土が溶岩の熱で焼かれてれんが色となった山頂には、赤いきらめきのごとく絵の具が載せられています。手前の台地には隆起の痕跡でしょうか、無数の崖が深く影を刻み、1950 年代初頭の 小川原作品の特徴であるくっきりとした線で強調されています。

山々の塊が折り重なるように配置され、軽快な筆致で描かれた、すがすがしい印象の作品です。

文：沼田 絵美（小川原脩記念美術館 学芸員）

ふるさと探訪

身近な生き物の変化—スズメ—

470 回

皆さんは最近スズメを見ましたか。実は、スズメの数が減ってきているようです。50 年前と比べると 90 ㊦減少し、ここ 20 年では 50 ～ 80 ㊦減少しているという報告もあります。

原因の一つとして考えられているのが安全に巣を作る場所が減っていることです。古い日本家屋には屋根の下などにすき間が多く、スズメが巣を作れる場所が多かったのですが、住宅の高気密化やマンションが増えたことで、巣を作れる場所が減って子育てがうまくできなくなっています。

もう一つがエサの減少です。稲の収穫にコンバインなどの機械が普及したことで落ち穂が少なくなり、冬を越せないスズメが増えたと考えられています。スズメは雑食性ですが、特にイネ科の種子を好み、米は大好物です。そのため、かつては米農家に嫌われ、害鳥の代表のような存在で駆除するところもありましたが、スズメは繁殖期に子育てのため大量の虫を捕まえ、また雑草の種子も食べる益鳥でもあります。

スズメを駆除したために害虫が増えて、稲だけではなく他の作物や果物まで不作になったという話もあります。効果の高い農薬の登場や草地在減ってエサとなる虫が減っていることや、天敵のカラスが増えたことなど理由はたくさんありますが、枕草子や源氏物語にも登場し、多くの歌人にも歌われ、昔から日本人に一番身近な鳥のスズメが、将来見られなくなるのではないかと不安になってしまいます。

「いそがしや 昼飯頃の 親雀」（正岡子規）



文：森脇 友行（俱知安風土館 学芸補助員）

展覧会のお知らせ

■第 1 展示室

没後 20 年小川原脩展「私の中の原風景」part1

小川原脩没後 20 年にあたる今年、改めてその画業についての再評価や研究を重ねてきた成果を交えて、小川原作品の新たな魅力に迫ります。

会期：開催中～ 8 月 15 日(月)

■第 2 展示室

おしゃべり美術館 対話鑑賞のススメ

小川原脩の作品を、会話を楽しみながら鑑賞する展覧会です。友人と、家族と、おひとりでも、語らいながら絵の中の出来事をひも解いてみましょう。キャラクターの「とりっちー」と「つぼっちー」が展覧会をご案内します。

会期：開催中～ 7 月 10 日(日)

アート・イベントのお知らせ

■ミュージアム・コンサート

「マリンバおしゃべり音楽会」

マリンバ奏者として活躍する井原由加子さん。「家路」や「エル・クンバンチェロ」など、おなじみのメロディーから技巧派の曲まで、マリンバの多彩な音色をお楽しみください。

日時：6 月 25 日(土) 14 時～ 15 時 会場：ロビー（無料）

出演：井原由加子さん（マリンバ奏者） 定員：50 名※要予約

予約受付：6 月 8 日(水) 9 時から電話申込（☎ 21 - 4141）

■土曜サロン

京都逍遙（9）「風雅の美～洛北～」

794 年の平安遷都に始まる京都の歴史。幕末維新までの千年の間、都が置かれた京都をしのぶ名所を巡ります。今回は詩仙堂、修学院離宮、下鴨神社など、貴族が隠れ住んだ寺々と離宮を巡ります。

日時：6 月 18 日(土) 14 時～ 15 時 20 分 会場：映像ルーム（無料）

お相手：美術館学芸スタッフ

俱知安風土館イベントのお知らせ

■ふるさと探訪「鳥”も”見ながら、神仙沼～長沼散策」

初夏のニセコの森を歩きながら、植物や鳥を観察してみませんか。

日時：6 月 18 日(土) 9 時～ 15 時 30 分

集合場所：神仙沼駐車場 参加費：250 円（保険料）

講師：矢吹全さん(ニセコネイチャーガイド・フォレストレック)

定員：8 名※要予約 予約受付：電話申込（☎ 22 - 6631）

■俱知安風土館いきもの調査隊「ヒナコウモリの個体数調査」

夕暮れ時、ヒナコウモリの出巢を観察しながら、個体数を数える調査を行います。

日時：6 月 21 日(火) 18 時～ 20 時 30 分 集合場所：百年の森公園 参加費：無料

講師：宮崎守（百年の森管理人） 定員：なし※予約不要

ミュージアム通信

小川原脩記念美術館 ☎ 21-4141

観覧料：一 般 500 円（400 円）

高 校 生 300 円（200 円）

小中学生 100 円（ 50 円）

俱知安風土館 ☎ 22-6631

観覧料：一 般 200 円（100 円）

高校生以下、美術館観覧者無料

※（ ）内は 10 名以上の団体料金

6 月の休館日 毎週火曜日

まだまだ若い？

美術館は 23 歳、風土館は 20 歳、体育館は 30 歳、公民館は 48 歳…。

今年の年齢早見表に、社会教育課が所管する建物の竣工年度を当てはめてみたら、こんな感じになりました。本町の美術館は、人でいえば卒業まもないフレッシューズくらいの年齢。まだまだこれから、たくさん歳を重ねていくことでしょう。

しかし、建物を長く使うためには適切な管理が必要で、建物自体は大丈夫でも、中にある設備などは 20 年程度で取り換えが必要になるものも多く、放っておいて故障したら、建物も使えなくなってしまうです。

そうならないよう、今年度は「社会教育施設個別施設計画」を策定し、大規模改修による長寿命化や改築を含めた、各施設の整備の順番を考えるための基礎資料にする予定です。

人も建物も、常日頃からケアについて意識することは大切です。

館 長 福原 秀和